



# YMCA NEWS

THE KUMAMOTO  
YOUNG MEN'S  
CHRISTIAN  
ASSOCIATION No.529

2016  
7

## 総主事の タラント Vol.27



### 共に生きる

震災から3カ月近くが過ぎました。地震の余波と大雨、土砂災害が懸念されています。避難生活が長期化している方々の心労は計り知れません。懸命に踏ん張っておられる熊本県民、市民の皆様と私たちは共に痛みを分かち合い復興支援活動に取り組んでいます。

台風や水害について、我々は毎年のように経験し、その備えもあります。しかし、地震についての知識や経験は多くはありません。そのような状況下で、阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災など全国YMCAの復旧復興、被

災者支援活動の経験を糧としたオールジャパンYMCAの「つながり」ネットワークの力をあらためて実感いたしました。

YMCAは「命を守り育む」ことを大切にしています。私たちにとって、「平時が非常時の鏡」であるという、日常の危機感を忘れてはいけないと思います。様々な事故やトラブルを起こしたときは多大な労力を払って対策しますが、平常時はそういうときの苦労を忘れてしまいがちです。災害対応だけではなく海や川での水難事故も同じです。服を着たままで、水の中に入り、泳ぎにくさを体感して、水難事故の非常時のパニックを防ぐ着衣泳体験等、全国のYMCAで展開するウォーター・セーフティーハンドブックを用いた水上安全の取組みが役に立ちます。安全を最優先する理念を疎かにしない、水上安全の醸成と子どもの命を守る役割を担っているという自覚を更に強くなりました。

熊本YMCAに新たに託された役割があります。益城町・御船町の避難所運営です。熊本YMCAが指定管理者として運営する「益城総合運動公園・体育館」、管理運営共同企業体の代表として運営を担っている「御船町スポーツセンター」が避難所となり、地域社会の再生、日常生活への回帰を支援する動きが求められています。生活者が主体となり「わかち合える」コミュニティを目指して運営したいと思えます。また、子どもたちの環境も大きく変わりました。様々な心と体のケア、勉強やスポーツ等、好きなことができる環境と機会、居場所が必要です。高齢者の生活支援も重要です。私たちのやるべき動きは多岐にわたります。「熊本YMCAの使命」の具現化する機会でもあり真価が問われています。

被災者と共に、熊本と共に生きる熊本YMCAとその復興支援活動にご支援をお願いいたします。

## Snap

YMCAの活動の様子や思い出を写した写真を募集します。スマートフォンや携帯電話などで撮影した写真をコメントを添えてお送りください。投稿いただいた写真は、ホームページやYMCA NEWSでご紹介させていただきます。投稿者の中から選考で毎月5名に、YMCAオリジナルノートをプレゼントします。



◀YMCAオリジナルノート

メール本文に以下の内容を書いて応募してください。

- 写真タイトル
- 撮影者名(本名)
- ハンドルネーム
- 撮影場所
- 写真についてのコメント

メールはこちらから▶



※画像サイズは横幅900pixel×縦幅600pixel程度以上(横長の場合)で著作権、肖像権を侵害するおそれのないものに限りです。

発行所/ (公財) 熊本YMCA  
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8  
TEL 096-353-6397代  
発行人/ 岡 成也 編集人/ 富森 靖博  
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



### わたしと聖句

ローマの信徒への手紙 12章15節

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

共に喜び、共に泣く

「隣人を自分のように愛しなさい」(マルコ12:31)とイエス・キリストが言う通り、誰かを愛するとは、その人をまるで自分自身のように大切に思うということ。当然、相手にうれしいことがあれば、まるで自分のことのようにうれししいし、相手に悲しいことがあれば、まるで自分のことのように悲しいと感じるでしょう。冒頭のパウロの言葉は、そのような、愛の当然の帰結を言い表したものです。

熊本地震が発生してすぐ、わたしは山口県から熊本YMCAに駆け付けました。そうせずにはいられなかったからです。2003年にくまもと県民交流館パレアでマザー・テレサ写真展を開催していただいた以来、熊本の皆さんには本当にお世話になってい

ます。わたしにとって、とても大切な方々です。その方々が苦しんでいるときに、じっとしてはいられなかったのです。

地震で壊れた家の片付けなども、何度かお手伝いしました。膨大なゴミの山を前にして、「いつになったら終わるのだろう」と途方にくれることもありましたが、隣で家の方たちが黙々と片づけをしているのを見ては、わたしも手伝わすにいられませんでした。

ボランティアにできることは限られています。ですが、どんなに小さなことだったとしても、相手の苦しみを自分自身のことのように感じ、自分出来る精一杯のことをするとき、そこに確かな愛が生まれます。その愛には、限りない価値があると思えます。マザー・テレサは「わたしたちのしていることは、大海の一滴にすぎません。ですが、やめてしまえば大海は一滴小さくなるでしょう」と言いました。愛の一滴を注ぐ人がいなければ、いつまでたってもこの世界が愛で満たされることはありません。これからも、小さな愛を注ぎ続けたいと思います。

カトリック宇部教会  
片柳 弘史

### あえて「次の災害に備えて」

「動かずにはいられませんでした。防災コーディネーターのキャップとベストを着けていると、皆さん安心して声をかけてくれたり質問をしてくれたりしました。冷静な立場でアドバイスできる人間がいないと、避難所は混乱しますからね」。熊本地震では、近所の様子を確認した後、近くの避難所へ。3日目からは、校区内の避難所を巡回しました。「地震の影響で、市内の堤防にも亀裂が入っています。今後、豪雨が来れば堤防の決壊や浸水などの二次災害が予測されます。また、再び大きな地震が起こらないとも言えません。支援物資が到着するまで2~3日は自力でのげらるように、備蓄分、非常持ち出し分を分けて備えておくべきです」。

こう語るの、的場幸雄さん。熊本市消防局を退職後、熊本市広域防災センターに勤務。「災害に強いまちづくりを進めるには、市民一人ひとりの意識を高めることが大切」と感じたそうです。2014年



呼ばれたら、どこへでも参ります!

~2015年度は熊本市危機管理防災総室の職員として、熊本市内の小・中学、高校や公民館など年間40カ所近くで防災講座を開くなど、市民の防災意識の向上に尽力。今年度からは熊本県の防災コーディネーターとして、地域防災を広げるために取り組んでいます。



「地域ごとに予測される災害は異なります。熊本市東区の皆さんに津波の話をして実感湧かないように、地域性と防災をリンクさせる必要があります。理解して納得していただかないと行動にはつながりませんからね」。講座では地域のニーズに合わせてプログラムを組み立てていきます。

## 命を守ることの大切さを伝えたい

### 高校時代からの縁を感じて

2015年4月に実施された上通YMCAの防災教育プログラム(写真)で、熊本市危機管理防災総室の職員として熊本市の防災の取組みの説明や、白川公園に設置されている防災倉庫と地下貯水タンクの見学に同行。この催しをきっかけに誘いを受け、上通YMCA運営委員に就任しました。月に一度の委員会

で、YMCAの様々な活動に関するアドバイスや意見交換を行っています。運営委員になって約1年。「実は以前、水泳連盟の指導員として、YMCA学院の生涯スポーツ科(現健康スポーツ科)の学生への水泳指導などに関わっていました。さらに「高校時代は競泳部に所属していたのですが、練習がとて厳しくて。夏休みに退部してしまい、やることを失った時に、友人と草葉町教会へ行ってみようということになりました。そこで、福田令寿さんに出会い、洗礼を受けました」と、的場さんは振り返ります。「福田令寿さんは熊本YMCAの初代理事長だと聞きました。その頃から縁があったのかもしれないね。毎年の熊本バンド早天祈禱会にも参加しています」。ボランティアとしてYMCAに関わることに抵抗はなかったと言います。

※福田令寿(1873年~1973年) / 熊本市名誉市民。熊本英学校を卒業後、英国に留学し女性の地位向上のため産婦人科を専攻。現在の医療法人社団愛育会福田病院の創立者。熊本YMCA初代理事長を1948年10月~1970年6月まで務めた。



### YMCAは地域の人々を守る存在に

今年4月17日に予定されていた防災教育プログラムは、直前に発生した地震により延期に。「自治会では“自分たちのことは自分たちで守る”という話をしますが、YMCAではさらに広範囲に、地域の人々を守ることに目を向けていきたい。いずれにしても、まずは自分の命を守ることが大切です。困っている人に手を差し伸べようとしても、自分がケガをしたりパニックになっては誰も助けることができません。自らの安全を確保した上で、冷静になって次の行動を考えてほしいです」。

赤ちゃんからお年寄りまで年齢を問わず、自分の命を守るための防災活動を行うことが目標という場さん。学校や自治体での防災講座は、参加者の年齢が偏りがちです。「その点、YMCAは様々な年代の方が関わる場所ですね」。上通YMCA主催の防災教育プログラムは現在、年1回の開催。「ご要望があれば、月一でもやりますよ」と笑顔で語ってくれました。

**的場 幸雄さん**  
1950年、熊本市生まれ。上通YMCA運営委員。熊本市消防局退職後、熊本市地域防災センター職員、熊本市認可外保育施設指導員として活動。2014年4月から熊本市総室危機管理防災総室で防災教育指導員として地域や各種団体への啓発活動に携わり、2015年には熊本県地域防災コーディネーターの研修を受講。地域社会の防災への取組みを推進している。

### Pickup

43家族129名が参加。  
むさしYMCA  
父の日プール開放



夏が来た!  
黒川保育園プール開き

益城町の小学生に  
ながみねファミリーYMCAの  
プールを開放



Information 行こう 見よう 深めよう

熊本地震 災害救援ボランティア募集

阿蘇YMCAは、阿蘇地域のボランティア活動の拠点として、全国のYMCAや関係団体とも協働し、倒壊した家屋のがれきの撤去や清掃などに取り組んでいます。地域の復興にはボランティアの協力が欠かせません。ぜひご協力をお願いいたします。

- 場 宿泊 / 阿蘇YMCA 活動 / 阿蘇周辺
- 回 5名以上で1泊以上の宿泊をする団体
- 費 1泊素泊まり3,630円  
食事付5,000円(夕・朝・昼食)
- 因 阿蘇YMCAがコーディネートするボランティア活動に参加します。家屋のがれきの撤去、片づけ、農業ボランティア、観光支援ボランティア、生活情報ボランティア、心のケアを目的としたイベントの企画運営など。立入り規制のあるような危ないところには行きません。
- 図 現地でYMCA職員の指示に従い、積極的に協力できる方
- 回 汚れてもよい服装、ヘルメットか帽子、作業用

- ゴーグル(作業時の粉じん対策)、タオル、水筒、厚手の作業用ゴム手袋(2~3組)、長靴、雨具、着替え、洗濯ばさみ、宿泊セット、弁当(初日分のみ)、そのほか個人で必要と思われるもの(YMCAから以下のものを提供)
- 洗濯洗剤、布団・シーツ、寝る場所(男女別)、風呂、食事(申込者のみ)、水
- 回 許可なく、被災地や避難者の状況を撮影し、SNS等にアップすることを固く禁じます。未成年者の参加には、保護者の同意が必要です。YMCAのFacebookやHP等で、活動写真を掲載させていただく場合があります。
- 事前に、ボランティア保険(天災プラン A:430

円 B:650円)への加入が必要です。事情により事前の加入ができない場合は、到着後に加入手続きを行います。

回 7日前までに電話にて  
阿蘇YMCA TEL 0967-35-0124



復興  
×  
支援

広島で若者だけの国際会議  
国際青少年平和セミナー

被爆者の体験談、核兵器問題や国際協力など、各分野で活躍する講師による講義やワークショップ、そしてグループ・ディスカッションなどを組み込んだプログラムです。その他、原爆資料館の見学や、平和公園内の記念碑をまわるフィールドワークを世界各国からの参加者とともにを行い、8月6日の平和記念式典にも参列します。



- 回 2016年8月4日(木)~6日(土)
- 場 広島YMCA、広島平和記念公園
- 回 青少年(高校生・専門学校生・短大生・大学生)
- 費 50,000円(熊本~広島の交通費含む)  
(熊本YMCA地球市民育成基金の助成申請により20,000円で参加可能です。詳しくはお問合せください)
- 回 参加者には事前研修を実施します。日程は別途お知らせします。
- 回 広島YMCA 回 7月15日(金)
- 回 熊本YMCA企画・情報・国際部 TEL 096-353-6397

交流  
×  
学び

一生忘れられない9日間を  
第20回タイ・ユースワークキャンプ

現地の人と協力して、生活設備の整備を行ったり、スラムで生きる子どもたちと活動したり、異文化理解を深めることができるプログラムです。厳しい現実の中でも、前向きに生きるタイの人々と接し、真の豊かさを考えてみませんか?



ワーク  
×  
体験

- 回 8月31日(水)~9月10日(土)
- 場 タイ国チェンマイ県・チェンライ県
- 回 高校生以上で健康状態に問題がなく、主体的に参加する意志のある方
- 回 20名(最少催行人員10名)  
※最少催行人員に満たない場合等、やむをえず実施ができない場合もあります。
- 回 185,000円 ※フライトの予約状況等により、参加費の価格変更を行う可能性があります。  
○航空運賃、宿泊費、食費、現地交通費など現地訪問にかかる経費が含まれます。燃油サーチャージ、空港税(福岡・バンコク)、パスポート取得代金は含まれません。海外旅行傷害保険には各自でご加入ください。(熊本YMCAユーストラベルでも加入できます)
- 回 ワークキャンプ参加者は事前研修(2回実施)に参加していただけます。
- 回 企画主催 公益財団法人 熊本YMCA  
旅行主催 ㈱日専連ツアーズ 国土交通大臣登録旅行業1085号  
回 7月22日(金) 回 上通YMCA TEL 096-352-2344

国際青少年平和セミナー / タイ・ユースワークキャンプ説明会

回 7月9日(土) 14:30~ 場 上通YMCA(中央区上通町5-5)  
参加希望の方は、事前にご連絡ください。

全てはタイから始まった

第1回、2回タイ・ユースワークキャンプ参加者  
松本 宗興さん



タイ・ユースワークキャンプが始まったのは1994年。私はその第1回に参加しました。当時は高校1年生。「父に強引に送り込まれた」と言っても過言ではなく、正直、はじめは行きたくありませんでした。

参加してみると、ワークは重労働。しかし、とにかく楽しかったという印象があります。学ぶことも多

く、日本との生活の違いやHIVの問題に衝撃を受けました。翌年は自分から「行きたい」と言い2年連続の参加となりました。

高校卒業後は専門学校で調理を学び、海外青年協力隊としてアフリカ南部のザンビア共和国へ渡って料理学校の指導者を務めました。協力隊の活動終了後も再び渡航。大使館の公邸料理人として勤務し、計8年半をザンビアで過ごしました。近年は東京のレストランに勤めていましたが、今年3月末から東アフリカのケニアに渡り、首都ナイロビのレストランで料理人として働いています。

アフリカでの生活が長くなりましたが、根っこに

はいつもタイでの経験や出会いがあると思っています。世界には、自分が学ぶべきことが数多くあると教えてくれました。今もタイのことは気になっており、昨年11月にも若竹寮を訪問しましたし、当時の仲間とは連絡を取り合っています。

タイ・ユースワークキャンプは、安全安心に参加できるアクティビティ型の海外旅行。他ではなかなか経験できない一味違うタイの魅力にふれられます。海外や国際活動に関心のある若い人には、「現地に行って見て聞いて触って会話して、自分が経験しないことには何も始まらない」と伝えたいですね。その第一歩として、このキャンプを勧めたいです。

R | E | P | O | R | T

全国のYMCAが一齐に 熊本地震街頭募金

熊本地震発生から1カ月が経過した5月14日(土)と15日(日)、全国の24YMCAで一齐に街頭募金活動が行われました。

各地のYMCAに関わる、会員、ワイズメンズクラブ、プログラム参加者、職員など、幼児から高齢者まで約1000名が参加。70カ所以上で通行人に協力を訴え、2,587,913円の募金が寄せられました。また、台湾の台中YMCA、韓国の大邱YMCA、金泉YMCA、タイのチェンマイYMCAなど、海外のYMCAでも各地で募金が呼びかけられています。



子どものケアを学ぶ 心理的応急処置研修

避難所となっている益城町総合運動公園のプレイルーム、プレイパークでの子どもたちのケアのためYMCAと共に活動してきたワールド・ビジョン・ジャパンによる研修が6月4日(土)、水前寺幼稚園で実施されました。熊本YMCA他2団体の職員計24名が参加。震災・紛争などの緊急事態下において支援者が被災者の安全、文化、尊厳などを尊重しながら、心理面への配慮をともなった支援を行なうためのガイドライン「心理的応急処置」について学びました。被災した子どもたち、家族に対してどのように接したらいいのか、ということを中心に行われ、現在、避難所やYMCAに集う子どもたちの日々のケアはもちろん、これからの災害にも備えられる貴重な研修となりました。



東北の子どもたちから 絆をつなぐメッセージ

東日本大震災で被災した小学校より、熊本市立一新小学校の子どもたちへ応援の寄せ書きメッセージが届き、6月6日(月)贈呈式が行われました。

東日本大震災の後、宮城県など被災地で支援活動を行った熊本YMCA職員が一新小学校で報告会を行ったのを受け、子どもたちの発案で被災地の小学校に寄せ書きやビデオレターを贈ったことがきっかけ。今度は、宮城県南三陸町の伊里前小と東松島市の宮野森小(旧野森小)の子どもたちから、「恩返し」として届けられました。くまモンやひまわりが描かれた寄せ書きには「熊本のみなさんが一日でもはやくおだやかな生活がおくれるようにねがっています」などと書かれており、代表で挨拶した6年生の西村妃晶さんは「このような交流ができることに感謝しています。メッセージに元気をもらいました」と話しました。



阿蘇に笑顔を 子どもフェスタ開催

6月12日(日)、第1回阿蘇子どもフェスタを阿蘇YMCAとYMCA黒川保育園で実施しました。震災から2カ月、いまだ困難な状況にある人や、不安を抱えている子どもたちと家族に楽しんでほしい、笑顔になってほしい、笑ってほしい、と願い企画したものです。

横浜、大阪、福岡、熊本のユースリーダーが集まり、たくさんのお楽しみコーナーを設置。子どもたちと家族で遊べる空間を提供しました。また、保護者の皆さんがゆっくりくつろぐことができるカフェコーナーも設けました。昼食は、餅つきやバーベキュー。ビンゴゲームも楽しみました。

参加者からは、「ずっと片付けなどに追われていましたが、家族で楽しい時間を過ごし、子どもたちの笑顔を見ることができました」という声が聞かれました。避難所で遊んでいた子ども同士が再会し、お互いの無事と元気を確認する場面も見られました。阿蘇YMCAでは、復興に向けて、子ども、家族、地域の人々のためのプログラムを提供していきます。



阿蘇YMCA 山田真二

災害時の子どもの心のケア

「親のそばから離れない」「夜ひとり眠れない」——。心のSOSに気づいた時、周りの大人たちはどう対応すればいいのでしょうか。精神科医で子育てカウンセラーあけほしだいじの明橋大二さんによるアドバイスをご紹介します。

回 子どもが、「地震ごっこ」をするように。これって不謹慎?

回 災害を体験するなどして大きな不安を持った子どもは、不安を解消するために様々な行動を示します。地震ごっこや災害ごっこもその一つで、これは心の傷をいやすための一つの手段です。ですから不謹慎だといって叱らないほうがよいのです。また、災害の時の体験を繰り返し話す子もありますが、それも心の傷をいやす働きがあるのです。ただ、気をつけていただきたいのは、大人から無理に「ごっこ遊び」をさせたり、怖かった話を聞き出そうとしたりするのはよくありません。あくまでも、子どもの自発的な表現を大事にし、受け止める、ということです。

回 小5の子どもが、震災後甘えてくるように。これも、赤ちゃん返りなの?

回 学童児でも、親のそばから離れたがらない、夜一人で眠れない、などの「赤ちゃん返り」の症状を出す子もいます。そういう時は、やはり十分に受け止めることが大切です。手を握るとか、ぎゅっとするだけでもいいです。学童になると、子ども同士で遊ぶことができます。震災後、東北に雪が降った時に、雪だるまを作る子どもたちがテレビに映し出されました。遊びによって、精神的なショックを忘れることができます。子どもは、遊びによってショックを忘れます。ですから、子ども同士の遊びは大事なのです。中越地震の時、子どもを持つお母さんにアンケートを取ったところ、何がうれしかったかという、「コンサートや演劇を見たこと」だという回答がありました。劇でも「笑えるものが、とてもよかった」と言っています。災害のニュースや悲惨な映像ばかり見せるのは、やはりよくありません。見せるのなら、子どもが笑顔を取り戻せるようなもの、皆で楽しめるようなものがないと思います。



この内容は、2011年4月20日発行の1万年堂新聞(号外)「東日本大震災緊急アドバイス 受け止めて! 子どもの心のSOS」の一部を、特別に再編集したものです。